

2021年9月26日(日)
大阪経済大学
大会2日目:15:50-16:50
オンライン大会

日本における近代経済学史研究事始め—限界革命研究とともに歩んで—

井上琢智
(元関西学院大学)

《資料1》

目次

- 【I】1970年前後の近代経済学史研究に関する国内外の学界動向
- 【II】近代経済学史研究者動向-『経済学史学会名簿』より-
- 【III】関西学院大学における経済学史研究
- 【IV】関西における経済学史研究環境-「堀研究会」「経済学史研究会」-
- 【V】テーマの推移(理論専攻希望から学史研究へ)
- 【VI】日本における近代経済学史研究(HOPEの会)
- 【VII】関西における近代経済学史研究(近代経済学史研究会)
- 【VIII】その他の研究会等
 - 1)ミルの会
 - 2)日本経済思想史研究会
 - 3)アメリカ経済思想史研究会
 - 4)研究環境としての図書館
- 【IX】限界革命について
- 【X】限界革命研究とともに歩んで—結論にかえて—

《資料2》

6)1971年8月「限界革命誕生百年」に係わる国際会議（イタリア・ベラジオ）の開催（*History of Political Economy*, Fall 1972 4(2)：岡田純一・早坂忠訳『経済学と限界革命』1975）

執筆と邦訳者：①～⑤：総論：⑥以下：各論：**太字外国人**：『経済思想史辞典』で立項

A.W. コーツ：①「経済学史における限界革命」（松浦保）、④「1870年代限界革命の経済的・社会的脈絡」（岡田純一）

M. ブローグ：②「限界革命は存在したのであろうか」（中村賢一郎）、

R. S. ハウェイ：③「限界主義の諸起源」（早坂忠）、

D. ウインチ：⑤「限界主義と経済科学の領域」（宮崎犀一）

N. B. D. マルキ：⑥「ミルとケアンズ」（上原一男）

R. D. C. ブラック：⑦「ジェヴォンズと近代経済学の基礎」（中村賢一郎）

W. ジャッフエ：⑧「『限界革命』におけるワルラスの役割」（福岡正夫）

V. タラショ：⑨「ヴィルフレッド・パレートの限界主義」（美濃口武雄）

E. ストライスラー：⑩「オーストリア学派と限界主義」（美濃口武雄）

T. W. ハチソン：⑪「『限界革命』ならびにイギリス古典派経済学の衰退と崩壊」（早坂忠）

J. J. スペングラー：⑫「限界革命と経済成長へのかかわり」（柏崎利之助）

R. L. ミーク：⑬「限界主義とマルクス主義」（宮崎犀一）

P. バルッチ：⑭「イタリアにおける限界主義の展開—1871-1980—」（上原一男）

松浦保：⑮「日本における限界主義」

C. D. W. グッドウイン：⑯「限界主義の新世界への移動」（柏崎利之助）

G. J. ステイグラ：⑰「経済学への効用理論の摂取」（上原一男）

G. L. S. シャックル：⑱「限界革命—そこで収穫されたもの」（松浦保）

《資料3》

9)近代経済学者の著作集の出版：資料整備の進行（具体例）

- (1) A. Marshall, *Principles of Economics*, 9th(variorum) edition with annotations by C. W. Guillebaud,1961.
- (2) *Correspondence of Léon Walras and Related Papers*, edited by William Jaffé, 3vols,1965.
- (3) *The collected writings of John Maynard Keynes* (1971-89)
- (4) *Papers and Correspondence of William Stanley Jevons* (1972-81)
- (5) *Œuvres économiques complètes / Auguste et Léon Walras* (1972-89)
- (6) *The Early Economic Writings of Alfred Marshall, 1867-1890* (1975)

《資料4》

【Ⅱ】近代経済学史研究者動向-『経済学史学会名簿』より-

1) 概要

(0)経済学史学会会員推移

1950(123)、1952年(209)、1954(314)、1957(403)、1960(505)、1962(515)、1963(450)、1972(500)、1975(604)、1982(730)、1989(803)、1998(854)、・・・
2020/8/3(514)<定職者321名・非定職者126名・院生39名・終身会員28名>

【参考文献】「Ⅲ 会員数の変動」経済学史学会編『経済学史学会50年史』2000、44-45頁

Cf. W. S. Jevons, "Shakespearian literature," *Athenaeum*, no.1898, 1864, pp.373-74.

(1)1973年版：会員数540名：近代経済学史研究者：69名：13%

【特徴】「ケンブリッジ学派、とりわけケインズ経済学への関心・定着によりその関係文献は多いが、学史研究では伊東光晴、早坂忠、馬場啓之助、山田雄三、菱山泉、末永隆甫らの研究があるに過ぎず、ローザンヌ、オーストリア、アメリカの研究では、岡田純一、立半雄彦、松浦保、林治一、大野忠男、田中敏弘による研究に限られ、その範囲は、純粹理論・方法論偏重の傾向があり、経済学全体の体系的・統一的把握は皆無であり、ジェヴォンズ研究には見るべき成果がない」（菱山泉「近代経済学史」（日本経済学会連合編『経済学の動向』1974）

(3)1985年版：会員数779名：近代経済学史研究者78名：10%

【特徴】①ケインズ研究の増加と多様化、②ワルラス研究（社会思想研究開始）の増加、③スラッファ研究の登場、④ラディカル・エコノミスト研究の登場、⑤女性研究者の増加

(5)1999年版：会員数846名：近代経済学史研究者156名：18%

【特徴】①テーマの分化・多様化、②現在存命の経済学者研究、③ケインズ研究の増加、④シュンペーター研究の増加、⑤現代的テーマの増加、⑥テーマ別理論史研究の増加

(7)2013年版：会員数666名：近代経済学史研究者143名：22%

【特徴】①近代経済学研究者の2割越える、②現代経済学者の研究、③現代経済学の課題への学史的アプローチ、④ハイエク研究の増加、⑤ケインズ経済学の範囲拡大、⑥ピグー研究（福祉国家論を含む）の増加。[背景]若手の台頭の理由：学会組織改革：名誉会員制の廃止・幹事の任期制

《資料5》

2) 資料 (太字でイタリックは近代経済学史研究会のメンバーを示す)

(1)1973年版：会員数 540名：近代経済学史研究者：69名：13%

安藤金男 (一般均衡理論→ローザンヌ→所有と時間)、有田一郎 (ケインズ)、浅野栄一 (イギリス近代経済学史)、馬場啓之助 (ヴィクセルとケインズ)、藤本保太 (近代経済学史)、藤田暁男 (マーシャル)、五井一雄 (厚生経済学)、後藤修三 (厚生経済学→プルドン・ワルラス)、浜崎正規 (経済発展理論上の近代経済学史→シュンペーター)、**橋本昭一** (マーシャル)、早坂忠 (ミル・マーシャル・ケインズ・日本)、林治一 (オーストリア)、本間祥介 (近代経済学と資本理論)、保坂直達 (マーシャル以降の近代経済学)、一井昭 (寡占理論)、井手ロー夫 (経済発展と分配→マーシャル準地代)、**井上琢智** (ジェヴォンズとマーシャル→近代経済学史→制度化と導入史)、五百旗頭伊都雄 (マーシャル)、**磯川曠** (マーシャル)、伊東光晴 (近代経済学史)、金指基 (シュンペーター)、柏崎利之助 (近代経済学史)、岸野文雄 (マーシャルからケインズへ)、河野善隆 (シュンペーター)、工藤良平 (ケインズと以降)、松浦保 (ローザンヌ)、三辺清一郎 (限界効用学派)、南方寛一 (新古典派)、美濃口武雄 (分配論→ケインズ)、宮崎義一 (近代経済学の経済像→ケインズ思想史的研究)、村田芳一 (マーシャル)、永沢越郎 (ケンブリッジ学派→マーシャル)、中村至朗 (厚生経済学→新厚生経済学)、緒方俊雄 (マーシャル→環境と情報の経済学)、岡田純一 (マルクス・ススモンディ→フランス経済学史)、岡本典子 (近代経済学史)、大石泰彦 (近代経済学史→近代経済学史から見たマルサス再批判)、大野忠雄 (シュンペーター→経済学史)、斧田好雄 (マーシャル)、立半雄彦 (ワルラス)、**坂口正志** (マーシャル)、坂本正志 (マーシャル→経済学体系と思想)、坂本弥三郎 (経済成長と経済変動)、佐藤豊三郎 (近代経済学史)、岡本安孝 (マーシャル)、末永隆甫 (ケンブリッジ学派)、高山満 (寡占とマクロの関係)、武野秀樹 (国民経済計算)、玉野井芳郎 (日本経済学史)、玉井竜象 (近代経済学史)、田中敏弘 (アメリカ近代経済学史)、上原一男 (イタリア経済学史)、**上宮正一郎** (限界革命期の諸学説・近代経済学の展開→とりわけジェヴォンズ→経済学の大衆化)、和田貞夫 (経済成長)、矢島欽次 (ケインズ)、山田耕之介 (近代経済学史)、山下博 (近代経済学の成立過程)、山下正毅 (国民所得)、吉沢法生 (信用学説史上のホトレーとケインズ)

(2)1974年版 (研究テーマ記録なし)、1975年版、1976年版 (研究テーマ記録なし) 1978年版

(3)1985年版：会員数 779名：近代経済学史研究者 78名：10%

浅田統一郎 (経済成長論)、東清二郎 (オーストリア)、荒木勝啓 (オーストリア)、有賀祐二 (スラッファ・ケインズ)、池尾愛子 (ヴィクセル・ケインズ→日本から見た20世紀の経済学の展開)、井田高之 (マーシャル)、井上栄喜 (マーシャル国民分配分)、小沼宗一 (ケインズ→マーシャル)、葛西孝平 (ケンブリッジ学派)、加納正雄 (ケインズ・ポスト・ケインズ)、河野良太 (1870年以降の英国近代経済学史→マクロ形成史)、北川和彦 (スラッファの限界生産力説批判者としてのポスト・ケインジアン→+スラッファ)、木下富雄 (限界革命の意義)、楠谷清 (公共経済学)、栗田啓子 (エンジニア・エコノミスト)、黒木龍三 (再生産理論とケンブリッジ学派→+ケインズ)、笹原昭五 (近代経済学史)、塩野谷裕一 (ケインズ・シュンペーター)、篠崎敏雄 (ハロッド→+ケインズ)、白杉剛 (スラッファ→+ネオ・リーカディアン)、菅野英機 (ポスト・ケンジアン→+ケンブリッジ学派)、鈴木典夫 (ケインズ経済学の形成)、関岡保二 (マーシャル)、瀬地山敏 (ケ

インズ)、高橋利雄(ケインズ・ケインジアン)、都留康(ラディカル・エコノミックス)、出口康博(マーシャル)、戸島宇一郎(ネオ・ケンジアン)、中久保邦夫(フランス効用論史・ワルラス社会思想)、永友育雄(シュンペーター)、中矢俊博(ケインズ→マルサス)、名和献三(ケインズ)、西岡幹雄(19世紀後半の英米経済学)、新田政則(ワルラス)、根岸隆(現代経済学の観点からの経済学史研究)、袴田兆彦(ケインズ経済学)、服部容教(ケインズ)、林田治男(ケンブリッジ)、菱山泉(古典学派と現代経済学)、平井俊顕(ケインズ理論史)、巫ショウ鴻(ケインズ)、福田川洋二(ケインズ)、藤井速実(19世紀イギリス景気循環論)、堀江政男(ケインズ・シュンペーター)、松嶋敦茂(ローザンヌ)、松本有一(スラッフア)、宮本順介(スラッフア)、森田雅憲(ポスト・ケインズ)、森戸政信(マーシャル)、八木紀一郎(オーストリア学派)、山田信一(ケインズ)、吉見威志(ケンブリッジ)、米沢忠幸(ケインズ)

【特徴】①ケインズ研究の増加と多様化、②ワルラス研究(社会思想研究開始)の増加、③スラッフア研究の登場、④ラディカル・エコノミスト研究の登場、⑤女性研究者の増加

(4)1987年版、1988年版、1990年版、1992年版、1997年版

(5)1999年版：会員数 846名：近代経済学史研究者 156名：18%

秋場勝彦(理論経済学研究のための経済学史)、秋山美佐子(ハイエク)、揚武雄(ポスト・ケインズ)、阿部秀二郎(ジェボンズ)、荒川章義(新古典派の起源)、池田幸弘(オーストリア)、池永輝之(近代経済学史<ケインズ>)、石井信之(経済学ノーベル賞)、井上孝(競争理論の歴史)、井上良朗(マーシャル)、井本昌直(スラッフア)、岩下伸朗(マーシャル)、岩本武和(マーシャル)、浮田聡(オーストリア)、宇野立身(ポスト・ケインズ派)、江頭進(ハイエク)、大須賀直樹(ウィーザー勢力論)、大矢野栄次(ケインズ経済学の現代的意義)、岡田光正(長期景気変動)、岡田元浩(経済理論の歴史)、岡村宗二(新しいケインズ経済学)、岡本義行(現代経済学と古典経済学)、小原英隆(ケインズとロバートソン)、金井辰郎(ケンブリッジ学派)、金子ハルオ(サービスの理論と学史)、神谷哲郎(ケインズ経済学とケインズ学派経済学)、賀村進一(シュンペーター)、川俣雅弘(厚生経済学)、川村哲章(ハイエク)、杭田俊之(シュンペーター)、小島専孝(ケインズとホートレー→ピグー)、込江雅彦(ケインズ)、小峯篤(英経済政策史とケインズ→ケンブリッジ学派の知性史)、近藤真司(マーシャル)、齋藤隆子(ケインズ)、酒井凌三(ケインズ)、佐藤イツミ(チューネン)、佐藤方宣(ナイト)、佐藤良一(欧米ラディカル派経済学)、佐藤隆三(確率概念)、柴沼武(北欧学派貨幣理論)、下平裕之(ロバートソン)、須藤修(イノベーションの経済学史)、鷺見研作(ポスト・リカディアン)、清野康二(マルクスとシュンペーター)、高橋聡(ミルとワルラス)、高橋美弥子(クルノー)、竹本将規(セン)、田墨好光(スラッフア、ケインズ)、田中求(シュンペーターと現代企業者論)、千葉昌夫(ワルラス)、塘茂樹(ボエーム=バベルク)、内藤敦之(ケインズ・ケインジアン)、中路敬(フィッシャー)、永田聖二(ケインズ・スラッフア)、中山智香子(オーストリア学派からゲーム論)、鍋島直樹(ケインズとカレキー)、難波安彦(ハロッド)、西垣鳴人(不確実性)、西川弘展(ケインズ貨幣論)、西村崇(ミーゼス)、新田政則(ワルラス)、野口真(古典派と現代経済学)、信吉史朗(寡占理論)、橋本比登志(セー→マルサスとヴィクセル)、八田幸二(ハイエクとケインズ)、服部茂幸(ポスト・ケンジアン)、濱田寅彦(Shckle, Lachman)、浜矢浩司(ハイエク)、林康二(シュンペーター、ケネー)、樋口辰雄(シュンペーター、ケインズ)、姫野順一

(ホブソン)、平野嘉孝 (スラッファ)、**藤井賢治** (マーシャル、ケインズ)、藤原新 (ケインズ方法論)、堀江正雄 (ヴェブレン・ケインズ・シュンペーター)、**本郷亮** (ピグー)、舛谷謙二 (マーシャル)、松川周二 (ケインズ)、松谷泰樹 (カレッキ)、御崎加世子 (ワルラス)、水上健造 (近代経済学史)、水田健 (新古典派)、三土修平 (新古典派資本理論)、宮木一平 (ケインズ、組織論、国際機構論)、ミンヒンソク (シュンペーター)、武藤功 (数理経済学の発展)、元木久 (カレッキ)、本吉祥子 (シュンペーター)、八木尚志 (近代経済学史)、山崎弘之 (ハイエク)、吉尾博和 (シュンペーター)、米川紀生 (シュンペーター)

【特徴】 ①テーマの分化・多様化、②現在存命の経済学者研究、③ケインズ研究の増加、④シュンペーター研究の増加、⑤現代的テーマの増加、⑥テーマ別理論史研究の増加

(6)2001 年版、2003 年版、2005 年版、2007 年版、2009 年版、2011 年版

「70 年代が資料整備開始の時代であり、80 年代以降はその公刊と本格的な近代経済学史研究開始の時代であった。... 90 年代になると日本人研究者、とりわけ近代経済学史研究者も一次資料の発掘・公刊にも従事し、国際会に出席し、英文で論文を公表するなど、国際的にも活躍し始めた。... 『実証性』を追求してきた近代経済学、現代経済学、否、経済学という ... 科学自体が、「規範論」から、さらに哲学・思想からも乖離せざるを得なかったし、経済学史もまた同様であった。... 新しい経済学史の確立のためには、学史家間の学問的交流に加えて、科学史家、哲学者、倫理学者と学問的交流によって認識論・科学方法論を加味した研究が可能になり、それによってはじめて経済理論史から経済思想史へ、さらには科学史としての経済学史の成立へと可能性が高まるだけでなく、哲学・思想・倫理を取り込んだ生きた学問の水準にまで経済学もまた立つことが出来るのである。ただ、その際、従来多く見られた日本の後進性から生じた特殊日本の問題意識ではなく、『環境』『人権』等といったより普遍的な問題意識にもとづく研究が必要であることはいままでもない」(井上琢智「近代経済学史研究の成果と課題—科学史としての経済学史を求めて—」【特集】経済学史研究の現状と今後—21 世紀の船出にあたって)『年報』第 39 号、2001)。

(7)2013 年版：会員数 666 名：近代経済学史研究者 143 名：22%

荒木勝啓 (リカードと新古典派)、池田毅 (カルドア・カレッキ)、石倉雅男 (ポスト・ケインズ派)、泉慎一 (ケインズ『無然性論』と経済学)、井田高之 (マーシャル)、伊藤宣広 (マーシャル)、伊藤正哉 (ハロッド)、伊藤理裕 (ハイエク)、今池康人 (ハイエク)、**上宮智之** (ジェヴォンズ→エッジワース)、植村博恭 (ポスト・ケインズ)、上山啓輔 (セン)、江里口拓 (福祉国家)、王量亮 (マーシャル教育論)、大原淑子 (シュンペーター)、大水善寛 (ホブソン)、大矢野栄次 (ケインズの現代的意義)、尾崎邦博 (イギリス自由主義)、笠井高人 (ポランニー)、門脇寛 (マーシャル)、菊地裕幸 (シジウィック)、楠美佐子 (ハイエク)、久保田博道 (ハイエク)、黒木龍三 (ケインズ)、黒木亮 (ナイト)、酒井弘格 (シュンペーター・ハイエク)、佐藤芳行 (コンドラチェフ)、杉本昌俊 (主観価値説と期待効用)、鈴木典夫 (ケインズ)、千賀重義 (ジェヴォンズ)、太子堂正称 (ハイエク)、高橋一正 (シュンペーター)、武田荘司 (シュンペーター)、駄田井正 (経済学説史のモデル分析)、田中啓太 (ロビンズ)、谷村智輝 (景気循環)、玉手慎太郎 (経済学と倫理学)、土田和長 (チューネン)、**中井大介** (19 世紀イギリス経済・社会思想→シジウィック)、長尾幸一 (ピグー)、永嶋信二郎 (ベバリッジ)、中野聡子 (交換理論の展開)、中村隆之 (ハロッド)、南部正広 (セン)、仁井田和也 (ハイエク)、西

林勝吾（クネーゼ）、野崎道哉（ポスト・ケインズ）、原谷直樹（現代オーストリア）、樋口和宏（ケインズ）、藤井盛夫（スラッフア）、藤田菜々子（ミュルダール）、増澤拓也（ゲーム理論）、益永淳（ラムジー）、三上真寛（コース）、宮本順介（スラッフア）、村井明彦（オーストリー学派）、山口系一（メンガー欲望論）、山崎聡（ピグー）、山崎好裕（現代経済学）、山根卓二（カップ）、山本英司（カレツキー）、山本堅一（マーシャル）、山本崇史（ケンブリッジ学派）、山本卓（福祉国家の生成史）、吉井哲（スラッフア）、吉原裕介（ハイエク）、吉原千鶴（ケンブリッジ）、若森みどり（ポランニー）、渡辺淳志（ケインズ）

【特徴】①近代経済学研究者2割越える、②現代経済学者の研究、③現代経済学の課題への学史的アプローチ、④ハイエク研究の増加、⑤ケインズ経済学の範囲拡大、⑥ピグー研究（福祉国家論を含む）の増加。[背景]若手の台頭の理由：学会組織改革：名誉会員制の廃止・幹事の任期制

《資料6》

- 3)機関誌における「学会展望」→「研究動向」(査読：第27号以降)
- (1)宮崎犀一「近代経済学史研究—マーシャル研究を中心に—」第3号、1965
 - (2)真実一男・溝川喜一「日本経済思想史—古典経済学のわが国への導入と展開—」第6号、1968
 - (3)松浦保「ローザンヌ学派」第7号、1979
 - (4)早坂忠「近代経済学史研究—近代経済学百年」第10号、1972
 - (5)坂本武人・杉原四郎「日本経済思想史—『社会政策学会』と河上肇—」第17号、1979
 - (6)白井厚・高哲男「アメリカ経済思想史」第19号、1981
 - (7)大田一廣・岡田純一「フランス経済学史」第20号、1982
 - (8)大野忠男「シュンペーター研究」第21号、1983
 - (9)早坂忠「ケインズ研究」第22号、1984
 - (10)八木紀一郎「オーストリア学派研究」第24号、1986
 - (11)橋本昭一「最近のマーシャル研究」第27号、1989
 - (12)平井俊顕「ケンブリッジ学派における二つの流れ—景気変動論を中心として—」第30号、1992
 - (13)金指基「シュンペーター研究の過去と未来」第30号、1992
 - (14)塘茂樹「オーストリア学派研究—創始者達の研究を通じて—」第31号、1992
 - (15)中久保邦夫「ワルラス研究の新動向」第33号、1995
 - (16)河野良太「ケインズ学派の諸潮流」第34号、1996
 - (17)小峯敦「ヴィクセル・コネクションの可能性—貨幣的経済理論の1潮流—」第35号、1997
 - (18)松本有一「最近のスラッファ研究の動向」第36号、1998
(第37号、1999迄)

《資料7》

【IV】 関西における経済学史研究環境－「堀研究会」「経済学史研究会」－

1) 経済古典研究会；大阪商科大学(1932-1944)

：1937年：C.メンガー著、安井琢磨訳『国民経済学原理』講読

2) 堀研究会(1946-198)と「四国学院大学に於ける研究会」(1967-1969)

「ケインズ」(入江奨：1947：「限界効用学説」西南部会編『近代経済学史研究』1972)、「ヒックスの限界生産力説」(入江奨：1948)、「W. S. Jevons の学説について」(福原行三：1948：『J.S.ミルの経済政策論研究』1960)、「ジェヴォンズの資本理論」(福原行三：1949)、「ケインズの重商主義論」(福原行三、1952)、「マーシャルの内部経済外部経済」(釜田好雄、1964<マーシャル研究継続>)、「J. B. クラークの経済学」(田中敏弘 1967)、「J. B. クラークにおける効用価値論の形成」(田中敏弘 1968)、「J. B. クラークの限界生産力理論とその社会的インプリケーション」(田中敏弘 1970)、「W. S. Jevons 研究—彼の純粹経済学の全体的把握について—」(井上琢智、1972) (以下、省略)

〔資料〕：久保芳和、田中敏弘「堀研究会記録」堀経夫博士喜寿記念事業委員会編『経済学の研究と教育の五十年』世界保険通信社、741-68頁、1973

3) 経済学史研究会 (第 255 回例会：2021 年 10 月 2 日)

〔資料〕田中敏弘「経済学史研究会の回顧と展望：第 200 回例会を記念して」

『経済学論究』64 巻 2 号、1-37 頁、2010 年 9 月

田中敏弘「<資料>経済学史研究会記録補遺」『経済学論究』65 巻 1 号、145-148 頁、2011 年 6 月

原田哲史「経済学史研究会の第 250 回記念例会とその歩みについて」

『経済学論究』(関西学院大学) 第 74 巻第 1 号、73-88 頁、2020 年 6 月

《資料8》

【VI】日本における近代経済学史研究（HOPEの会）

1)HOPE（経済学史研究会）の発足（第1回：1973年2月10日）

(1)発足の契機

(1)1972年5月末 経済学史学会関東部会：松浦保「経済学史研究の新動向」
限界革命100年記念のベラジオ国際会議の報告者（「日本における限界主義」）

(2)1972年11月 経済学史学会松山大会：井上初参加

(3)1972年暮 設立準備会開催

(4)第一回研究会報告会（1973年2月10日）案内

上原一男（早大：18/19世紀イタリア経済学史）、岡田純一（早大：マルクス＋シスモンディ）、柏崎利之助（早大：近代経済学史）、玉野井芳郎（東大：日本の経済学・比較学問史）、中村賢一郎（名大：経済学説の系譜学的研究）、早坂忠（東大：ミル・マーシャル・ケインズ・日本経済学史）、松浦保（慶大：近代経済学史-イタリア・ローザンヌ）、美濃口武雄（一橋大：古典派・新古典派）

(5)案内状「最近、現代の経済理論とその形成の歴溯をふまえて、経済学史を新たな視角から研究しようとする者が増加して参りました。海外においても経済学史にかんする国際学会の活動が活発になり、日本における経済学の発展に対する関心もたかまっております。」（特徴：現代経済学史研究と日本経済学史研究）

2)特徴：

①聞き取り：中山伊知郎（第2回）、高橋誠一郎（第6回）、柴田敬（第12回）、都留重人（第14回）、高垣寅次郎（第16回）

②海外研究者招聘・国際交流：M.ブロッフェンブレナー（第3回：HOPE編集委員）、T.W.ハチソン（第4回）、W.ジャフェ（第11回）、S.ホルンダー（第18回）

③出版事業：岡田純一・早坂忠訳『経済学と限界革命』（1975）、玉野井芳郎・柏崎利之助編『近代経済学の系譜—その史的再検討—』（1976）

④他研究会との交流：福田会+HOPE研究会（1974.5.8）

「福田徳三先生生誕100年記念講演」

ア)早坂忠「日本経済学史における福田博士」

イ)赤松要「生存権の社会政策」

Cf.福田徳三著・赤松要編『生存権の社会政策』黎明書房(1948：板垣與市編『生存権の社会政策』講談社文庫、1980：前者の改定版)。

ウ)中山伊知郎「厚生経済学と福田博士」

3)研究会誌『HOPEニューズレター』（製本済：関西学院大学図書館蔵）

①No.1：岡田純一「発刊の辞」、上原一男「HOPE研究会活動報告」、松浦保「海外での学史研究の動向」、玉野井芳郎「これからの研究のあり方」、早坂忠「『マーシャル初期著作論稿』」（1976.11.6）

②No.2：早坂忠「『経済学部史特集』に寄せて」、大森郁夫「慶應義塾大学経済学部史」、松浦保「東京大学経済学部史」、美濃口武雄「京都大学経済学部史」、柏崎利之助「ワルラスとジェヴォンズ」、宮崎宰一「書評:Consideration on Western Marxism」、「HOPE 研究会活動報告<第17回・第18回>」、早坂忠「マーシャルの日本人訳者宛書簡の謎<『思想』掲載論文>」(1977.5.28)〔注：荒巻正憲<九大>・田中敏弘<関学大>運営委員に新参加〕(1977.5.28)

Cf.①『関西学院大学経済学部五十年史』(1984.11)

書評：早坂忠『読書新聞』(1984.12.22)、杉原四郎「『関西学院大学経済学部五十年史』読後感」(『経済学論究』39(1)1985,135-44頁)

②橋本昭一「A.マーシャルの一日本人訳者への手紙」『国民経済雑誌』150(5),1984。「V『産業経済学』の日本語訳」橋本昭一訳『産業経済学』1985、303-7頁

③No.3：荒巻正憲「九州大学経済学部図書館」、南方寛一「神戸大学附属図書館六甲台分館」、真実一男「大阪市立大学図書館」、内藤昭子「京都大学経済学部図書室」、岡崎義富「一橋大学附属図書館」、中沢保「早稲田大学図書館」、笠野滋「慶應義塾大学三田情報センター」、斉藤滋「東京大学経済学部図書室」、佐藤隆三「ラカトスとMSRP」、「HOPE 研究会活動報告<第19回～第21回>」(1977.11.6)

《資料9》

【VII】 関西における近代経済学史研究

1)近代経済学史研究会：発足 1980年1月20日(日)1時

- (1)「近代経済学の史的展開に関心をもつ関西在住の若手研究者を中心に1980年頃から活動している研究会」
- (2)第1回：1980年1月20日(日)
- (3)第2回：4月5日(磯川・八木)
- (4)第3回：6月28日
- (5)第4回11月29日(ブラック来日)
- (6)第5回1981年3月21日
- (7)第6回5月31日(中久保)
- (8)第7回10月11日

資料：西岡幹雄【研究会消息】『年報』no.26,1988～)

3)出版物

- (1)D.P.オブライエン・J.R.プリスリー編井上琢智他訳『近代経済学の開拓者』1986
- (2)橋本昭一編著『近代経済学の形成と展開』1989
- (3)橋本昭一編著『マーシャル経済学』1990(マーシャル経済学研究叢書1)
- (4)井上琢智・坂口正志共編著『マーシャルと同時代の経済学』1993(マーシャル経済学研究叢書2)
- (5)K.ホイティカー編著、橋本昭一監訳『マーシャル経済学の体系』1997(マーシャル経済学研究叢書3)
- (6)橋本昭一・上宮正一郎編『近代経済学の群像』1998

《資料10》

近代経済学史研究会記録（上宮智之会員作成）¹

番号	年月日 [会場]	報告者・報告題 (*付は井上の手帳記録)
1	1980.01.20 (日) [六甲道勤労会館]	
2	1980.04.05 (土) [六甲道勤労会館]	「磯川, 八木著作論文紹介」*
3	1980.06.28 (土)	
4	1980.11.29 (土)	「井上」*
5	1981.03.21 (土)	
6	1981.05.31 (土)	「中久保」*
7	1981.10.11 (日) ?	「近経研?」*
8	1982.02.14 (日)	
9	1983.09.10 (土)	「研究会 (井上)」*
【1983年10月～1986年7月不明】		
10	1986.08.23 (土)	「八木」*
11	1986.11.30 (土) or 1986.12.	井上琢智「近代経済学成立期における方法論上の諸問題」
12	1987.03.27 (土)	坂口正志「マーシャルの賃金基金説をめぐって」
13	1987.06.28 (土)	磯川曠「マーシャルにおける自由と人間」
14	1987.08.24 (日)	西岡幹雄「マーシャル経済学とその反響」
15	1987.12.20 (日)	上宮正一郎「ジェヴォンズの理論変革再訪」
16	1988.03	八木紀一郎「ヴィーン大学の経済学講義」
17	1988.06.26 (土) [大阪ガーデンパレス]	中久保邦夫「ワルラスー経済・社会思想概要」
18	1988.09 [有馬温泉]	岡田元浩「ヴィクセルの貨幣的経済理論」 合評会：井上琢智『ジェヴォンズの思想と経済学』および八木紀一郎『オーストリア経済思想史』
19	1988.12.22. (土) [大阪ガーデンパレス]	井上琢智「19世紀イギリスにおける科学方法論ーハーシェル, J.S.ミル, ヒューウェル, ジェヴォンズ」
20	1989.03 or 1989.04.02 (土) [大阪ガーデンパレス]	坂口正志「マーシャルと限界生産力説」
21	1989.05.27 (土)	「近代経済学会合 (関西部会終了後)」*
22	1989.06 [大阪ガーデンパレス]	磯川曠「マーシャル経済学の文献紹介」
23	1990.12 [大阪ガーデンパレス]	『マーシャルと近代経済学』(仮題)の各論文検討
24	1991.03.31 (土) or 1991.04	同上

¹本リストは、松山直樹編『アルフレッド・マーシャル『産業と商業』公刊100周年記念講演会（主催：近代経済学史研究会）』（兵庫県立大学研究叢書、近日公刊）に収録される予定である。

	[大阪ガーデンパレス]	
25	1991.05 [大阪ガーデンパレス]	同上
26	1991.12.23 (月)	「<近代>研究会 (メンガー：八木, 近藤)」* 近藤真司「マーシャルの「代替の原理」」
【1992年1月～1993年3月不明】		
27	1993.04.04 (日)	合評会：栗田啓子『エンジニア・エコノミストーフランス公共経済学の成立』 合評者：中久保邦夫
【1993年4月～1996年6月不明】		
28	1996.07.20 (土)	近藤真司「マーシャル経済学における有機的成長と企業者」
【1996年8月～1997年11月不明】		
29	1997.12.23 (火) [大阪ガーデンパレス]	本郷亮「初期ピグーにおける H.シジウィックの影響」
【1998年1月～6月不明】		
30	1998.07.26 (土) [大阪ガーデンパレス]	近藤真司「マーシャル経済学における複合的準地代と有機的成長」
31	1998.12.23 (水) [大阪ガーデンパレス]	西岡幹雄「英国新古典派経済学の形成過程と『大学教育拡張運動』—米国における動向にも言及して—」
32	1999.03.23 (月) [大阪ガーデンパレス]	近藤真司「西岡幹雄著『マーシャル研究』(晃洋書房) 評」 中久保邦夫「ワルラス経済学における日欧の研究動向」
33	1999.08.30 (月) [富山大学]	西岡幹雄「本田利明の『自然治道』論と経済開発モデル：政策思想における『西域』型経世学への転換—日本海・北方貿易の政治経済システムへのアプローチ—」 本郷亮「ピグー『財政の一研究』」
34	2000.03.20 (月) [大阪ガーデンパレス]	服部茂幸「所得分配理論としてのカレツキの有効需要論」
35	2000.07.20 (木) [大阪ガーデンパレス]	上宮正一郎「ジョン・ネヴィル・ケインズの経済学方法論」
36	2000.12.23 (土) [K.G.ハブスクエア大阪]	西岡幹雄「カーズナーの企業家論の系譜と現代企業家論の動向」
37	2001.03.18 (日) [大阪ガーデンパレス]	橋本昭一「マーシャルはコミュニタリアンかリバタリアンか」
38	2001.07.20 (金) [K.G.ハブスクエア大阪]	西淳「日本経済思想史の再評価に向けて—青山秀夫とエッジワース—」 西川弘展「ケインズ流動性選好説の一つの起源—『改革論』第2章の形成基盤とその再評価—」
39	2001.12.23 (日) ? [大阪ガーデンパレス]	八木紀一郎「三浦梅園『価原』と西洋経済思想」
40	2002.03.21 (木) [K.G.ハブスクエア大阪]	井上琢智「「ジェヴォンズとアボリジニー問題—ディープ・エコロジーへの道—」
41	2002.07.20 (土) [K.G.ハブスクエア大阪]	林田治男「『一般理論』における異質性の取り扱いとその意義」(仮題) 西川弘展「ケインズ流動性選好理論のひとつの起源—1920

		年代英国貨幣数量理論の特徴一
42	2002.12.23 (月) [大阪ガーデンパレス]	上宮智之「エッジワース『数理精神科学』とその解釈—先行研究サーベイを中心に—」
43	2003.03.21 (金) [大阪ガーデンパレス]	小峯敦「イギリス在外研究報告—PRO, BL, LSE, Oxford の資料をめぐって—」(仮題) 西淳「柴田敬の経済学—柴田—高田論争を中心として—」
44	2003.07.21 (金) [大阪ガーデンパレス]	上宮正一郎「マーティノー経済学と経済学の民衆化」
45	2003.12.24 (火) [K.G.ハブスクエア大阪]	本郷亮「ピグー・ケインズ・ラムゼイのデルター一定常状態をめぐって—」 伊藤博章「J・B・セー経済学における企業者機能」
46	2004.03.20 (土) [K.G.ハブスクエア大阪]	上宮智之「『数理精神科学』の鳥瞰図」
47	2004.07.19 (月) [K.G.ハブスクエア大阪]	合評会：八木紀一郎著『ウィーンの経済思想—メンガー兄弟から20世紀へ—』ミネルヴァ書房 合評者：塘茂樹, 井上琢智
48	2004.12.23 (木) [大阪ガーデンパレス]	中井大介「シジウィック『経済学原理』におけるサイエンス・アートの区別」
49	2005.03.21 (月) [大阪ガーデンパレス]	橋本昭一「マーシャルの地代論とその学史的意義」
50	2005.07.18 (月) [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	藤本正富「ジェイムズ・ミルの相互需要説」 高橋一正「シュンペーターの理論体系における不安定性の役割」
51	2005.12.23 (金) [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	林田治男「明治草創期の鉄道に見る日本的資本主義の淵源」 近藤真司「ケンブリッジ学派におけるアルフレッド・マーシャルとウォルター・レイトン」
52	2006.04.02 (日) [大阪ガーデンパレス]	上宮智之「シジウィック=バラット論争におけるエッジワース—『倫理学の新方法と旧方法』を中心に—」 久松太郎「トレンズのマルサス『経済学原理』評論」
53	2006.05.15 (月)	米倉茂『落日の肖像—ケインズ—』イブシロン出版企画
54	2006.07.30 (日) [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	藤本正富「J.S.ミルの貿易思想—相互需要説の応用と貿易の知的・道徳的効果—」 西淳「青山秀夫とビジネスの倫理」
55	2006.11.23 (木) [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	西岡幹雄「制度の安定化フレームと二つの『厚生』的『経済』思想：太宰春台と中井竹山—『厚生』制度化をめぐる限定合理性と時間非整合性に対する『処方』について—」 近藤真司「ケンブリッジ学派におけるウォルター・レイトン—レイトンの『物価研究入門』を中心に—」
56	2007.03.21 (水) [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	伊藤博章「マーシャル経済学における企業家機能と知識」 Katia Caldari, Tiziano Raffaelli 「 <i>The Elgar Companion to Alfred Marshall</i> , Edward Elgar, 2006 について」
57	2007.09.04 (火) -05 (水)	経済思想研究会との共催 下平裕之「経済思想研究会の過去と現在の活動状況について」

	[弘前学院大学]	て」 近藤真司「近代経済学史研究会の過去と現在の活動状況について」 司会：小峯 敦（龍谷大学） 坂口正志「マーシャルの長期均衡と、準地代・複合的準地代について」（仮題） 司会：西岡幹雄 藤本正富「マーシャルの貿易理論—斧田好雄『マーシャル国際経済学』をめぐって—」 司会者：橋本昭一 合評会：小峯敦『ベヴァリッジの経済思想』（昭和堂） 司会者兼コメンテーター：本郷亮
58	2007.11.23（金） [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	塘茂樹「ケンブリッジにおけるモラル・サイエンスの伝統」 中井大介「ミルとシジウィックの功利主義」
59	2008.04.20（日） [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	磯川曠「A. マーシャルにおける幸福と人間性格との関係—進化論的経済観との関連—」（仮題） 松山直樹「A. マーシャルにおける初期心理学研究と経済学の関連」
60	2008.07.20（日） [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	船木恵子「J.S.ミルと女子高等教育—エミリー・デーヴィス書簡から」（ケンブリッジ大学 ガートン・カレッジ・アーカイヴ所蔵資料および文献紹介を中心に） 小峯敦「ラヴィントンにおける企業家の役割：メゾ・レベルの二重性」
61	2008.11.30（日） [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	久松太郎「エドワード・ウェストの収穫逡減の法則—地代論と穀物貿易論への適用—」（仮題） 小峯敦「ラヴィントンのケンブリッジ生活：一次資料から見えるケインズ等の影」 久保真 A Hidden History of Early Nineteenth-Century British Economic Thought: A Focus on the First Professor of Political Economy at Cambridge
62	2009.04.19（日） [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	合評会：中澤信彦著『イギリス保守主義の政治経済学』（ミネルヴァ書房，2009年2月） 評者：上宮智之・中野 力・松本哲人 合評会：中井大介著『功利主義と経済学』（晃洋書房，2009年3月） 評者：山崎 聡・近藤真司
63	2009.07.19（日） [大阪府立大学中之島サテライト教室]	合評会：山本英司著『カレッキの政治経済学』（千倉書房） 報告者：山本英司／合評者：元木 久 元木 久「カレッキとロックフェラー財団記録文書」
64	2009.11.29（日） [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	合評会：平井俊顕編著『市場社会論のケンブリッジ的展開』 評者：西川弘展・高見典和
65	2010.04.18（日） [関西学院大学大阪梅田キャンパス]	合評会：林田治男著『日本の鉄道草創期』（ミネルヴァ書房，2009年11月） 評者：井上琢智

66	2010.09.04 (土) [関西学院大学大阪梅田 キャンパス]	上宮智之「「エッジワース伝」の整備をめぐって—Lluís Barbé, Francis Ysidro Edgeworth (2010)への評価を 中心に」 中井大介「経済思想と人間観 ベンサム, ミル, シジウィック を通じて」
67	2010.12.05 (日) [関西学院大学大阪梅田 キャンパス]	合評会：只腰親和・佐々木憲介編著『イギリス経済学におけ る方法論の展開』(昭和堂, 2010年6月) 評者：原谷直樹
68	2011.04.24 (日) [関西学院大学大阪梅田 キャンパス]	林田治男氏「ロンドンにおけるマルクスの生活から」(仮 題) 近藤真司「複合的準地代と有機的成長—坂口説と馬場説をめ ぐって—」 坂口氏定年退職お祝い・井上氏長就任祝い
69	2011.09.25 (日) [関西学院大学大阪梅田 キャンパス]	小峯敦「ケンブリッジ大学図書館の資料探究：常任評議会の 議事録」(仮題) 上宮智之「エッジワースの女性労働問題への言及」(仮題)
70	2012.04.29 (日) [関西学院大学大阪梅田 キャンパス]	橋本昭一「『近代経済学史』と言う講義科目はまだ必要 か」 上宮正一郎「研究生活を終えるにあたって」 橋本氏・上宮氏定年退職お祝い
71	2012.06.23 (土) [兵庫県立大学淡水サロ ン]	経済思想研究会・京阪経済研究会との共催 第1部 実践との関連における経済学史の現状 松山直樹「経済的自由と経済騎士道について」 本郷亮「A.C.ピグー「法貨の交換価値」(1923年)—邦訳と 再検討—」 司会：小峯敦 予定発話者：佐藤方宣、久松太郎、上宮智之、福田進治、小 沢佳史ほか。 第2部 テキスト解析 下平裕之「テキストマイニングの応用事例：ケインズ『一般 理論』と書評(2)」 討論者：中井大介 司会：古谷豊
72	2012.12.23 (日) [大阪府立大学中之島サ テライト]	Roderick O'Donell, "Keynes's economics and his philosophy"
73	2013.04.21 (日) [大阪府立大学 I-site なん ば]	笠井高人「カール・ポランニーの『複合社会』と公共性」 松本哲人「ジョセフ・プリーストリーと経済学」 磯川氏定年退職のお祝い
74	2013.08.19 (月) [大阪府立大学 I-site なん ば]	西本和見「K. J アローの経済学の射程—『社会的選択と個人 的評価』を中心に—」 藤井賢治「マーシャリアン・パラダイムの再検討」(仮)
75	2014.08.29 (金) —30 (土) [尾道市立大学]	現代経済思想研究会との共催 林直樹「尾道市立大学小史と経済科の原点」 合評会(1) 柳田芳伸・諸泉俊介・近藤真司編『マルサス ミ

		<p>ル マーシャル』(昭和堂, 2013)</p> <p>発題者: 橋本昭一・久松太郎・小沢佳史</p> <p>合評会 (2) 桂木隆夫編『ハイエクを読む』(ナカニシヤ出版, 2014)</p> <p>発題者: 池田幸弘・本郷亮</p>
76	2014.12.21 (土) [関西学院大学大阪梅田 キャンパス]	<p>仲北浦淳基「D.H.ロバートソンの初期経済学研究と『産業変 動の研究』」</p> <p>本郷亮「近年の幸福度研究の動向: 功利主義思想の進化形 態」</p>
77	2015.04.26 (日) [大阪府立大学 I-site なん ば]	<p>井上琢智「近代経済学思想史研究から日本経済思想史研究へ — Biographer, Bibliographer, Editor and Transcriber —」</p> <p>井上氏定年退職のお祝い</p>
78	2015.12.20 (日) [大阪府立大学 I-site なん ば]	<p>林田治男「英国の 19 世紀を中心とした経歴調査方法の紹 介」</p> <p>王量亮 The concerning the working classes - A. Marshall's view</p>
79	2016.04.17 (日) [大阪産業大学梅田サテ ライトキャンパス]	<p>若松直幸「リカードウの『原理』第 29 章と第 17 章について の一研究—公債制度批判との関係から—」</p> <p>今池康人「マイケル・ポランニーと経済政策」</p>
80	2016.12.10 (土) [大阪府立大学 I-site なん ば]	<p>大阪府立大学・ケインズ学会関西部会と共催</p> <p>Peter Thomas Docherty 「—世界的金融危機後の経済学を考 える—“The Role of Economic History and the History of Economic Thought in Macroeconomics and Finance Courses after the Global Financial Crisis”」</p> <p>王量亮 ‘The Reference of Marshall's Writing after the Early Studies: Progress of the Working Class 1832-1867’</p> <p>討論者: 松山直樹</p> <p>今池康人 ‘Liberty: the Viewpoint of F.A. Hayek and M. Polanyi’</p> <p>討論者: 中澤信彦</p>
81	2017.04.23 (日) [大阪府立大学 I-site なん ば]	<p>笠井高人「『大転換』の起源と形成—教員活動に注目して」</p> <p>中久保邦夫「セレンディピティの果てに—僕がワルラス研究 を始めた事情—」</p> <p>中久保氏定年退職のお祝い</p>
82	2017.12.24 (日) [大阪府立大学 I-site なん ば]	<p>合評会 (1) 村井明彦 (2017)『グリーンスパンの隠し絵—中 央銀行制の成熟と限界』名古屋大学出版会。</p> <p>発題者: 吉野裕介/リプライ: 村井明彦</p> <p>合評会 (2) サミュエル・フライシャッカー (中井大介訳, 2017)『分配的正義の歴史』晃洋書房。</p> <p>発題者: 有江大介/リプライ: 中井大介</p>
83	2018.05.20 (日) [大阪府立大学 I-site なん ば]	<p>ケインズ学会と共催</p> <p>久保真「宮島綱男 (1884-1965) —経済学教授から使用者代 表欧州駐在エコノミストへ—」</p> <p>座談会: 「関西のマーシャル研究を振り返る—礪川曠先生追</p>

		悼一」 発題者：中井大介（松山直樹代読）、近藤真司、橋本昭一、井上琢智、中久保邦夫、上宮正一郎
84	2019.04.20（土） [大阪産業大学梅田サテライトキャンパス]	林田治男「わが研究者半生と反省」 林田氏定年退職のお祝い
85	2019.12.22（日） [大阪経済大学]	合評会：只腰親和・佐々木憲介編（2018）『経済学方法論の多元性』蒼天社出版 コメント：佐藤方宣、松山直樹、久松太郎、仲北浦淳基、西川弘展 リプライ：原谷直樹、上宮智之、久保真、石田教子、中澤信彦 座談会：マーシャル『産業と商業』公刊100周年を記念して (1) 本郷亮「第一次大戦後のイギリス経済とマーシャル『産業と商業』」 (2) 近藤真司「マーシャルの産業の経済学と『産業と商業』」 (3) 西岡幹雄「マーシャル『産業と商業』の評価と位置づけ：日本からの視野と大阪」

《資料 11》

〈井上研究史 1〉

- (1-a) 経済理論専攻を希望：理論の源泉に興味 田中（英書経済書購読）との出会
- (1-b) 演習：マーシャル『原理』第5編の輪読と文献目録（図書館）の整備
- (1-c) 需給の理論成立史への関心：
Shigeya Mori, *The theory of supply and demand in the English classical school: from Smith to Cairnes*, 1961. 森茂也『イギリス価格論史』（1982）
- (1-d) 卒業論文のテーマ：J.S.ミルからマーシャルへ：中間項：ジェヴォンズ
- (1-e) 修士課程1年目：1870年代のイギリスにおける経済学方法論争

〈井上研究史 2〉

- (2-a) 「W.S.ジェヴォンズ経済学研究—『経済学の理論』を中心にして—」（修論1972）
- (2-b) 「マーシャル経済学形成過程の一視点—彼の均衡理論の形成を中心にして—」（1972）
- (2-c) 「W.S.ジェヴォンズの科学方法論—J.S.ミル批判の一側面—」（1973）
- (2-d) 上記テーマで報告：全国大会共通論題「限界革命100年をめぐって」（1974）
- (2-e) 「J.S.ミルにおける『自由・必然』問題と『生産・分配二分法』問題—『論理学体系』第6巻と『経済学原理』—」
- (2-f) *Papers and Correspondence of William Stanley Jevons*, 出版開始:博論執筆中断
- (2-g) ジェヴォンズの生涯を「日記」と「書簡」を使って intellectual history を軸にした“Bildungsroman”として記述開始
- (2-h) 「W.S.ジェヴォンズの政策方法論—科学方法論との対比において—」（1976）
「真偽」判断：“verification”と「妥当性」判断：“proof”の区別
- (2-i) 「W.S.ジェヴォンズにおける社会改良政策についての一試論—国家と個人との関連を中心として—」（1977）

〈井上研究史 3〉

- (3-a) 「ジェヴォンズ経済学とニュートン—ジェヴォンズの科学論—」（1981）
- (3-b) 「J.S.ミルの数学・自然科学研究」（1892）
- (3-c) 「J.S.ミルと確率論」（1992）
- (3-d) 「近代経済学史研究の成果と課題—科学史としての経済学史を求めて—」（2001）

〈井上研究史 4〉

- (4-a) 「W.S.ジェヴォンズと日本の近代化—Money and the Mechanism of Exchange と The State in relation to Labour の翻訳史—」（1981）
- (4-b) 「W.S.ジェヴォンズの経済学教育—経済学教育の普及と専門化—」（1983）
- (4-c) 「イギリス社会科学振興協会とヴィクトリア中期の女性問題—APSS(1857-1886)の『会報』を中心として—」（1987）
- (4-d) 「イギリス社会科学振興協会と経済学」（1988）

- (4-e) 「イギリス科学促進協会 F 部会の歴史—新設(1833)からイギリス経済学会の創立(1890)まで—」 (1989)
- (4-f) 「イギリスにおける経済学の普及と制度化—研究の課題と展望—」 (1991)
- (4-g) 「W.S.ジェヴォンズとラテン貨幣同盟—ジェヴォンと F.ヘンドリックス—」 (1994)
- (4-h) 「ジェヴォンズと改革の時代」 (西沢・服部・栗田編著 『経済政策思想史』 (1999)

〈井上研究史 6〉

- (6-a) 「ジェヴォンズ経済学におけるテクニカル・タームの問題」 (1978)

〈井上研究史 7〉

- < 『黎明期日本の経済思想—イギリス留学生・お雇い外国人・経済学の制度化—』 (2006)へ道 >
- (7-a) 「近代経済学導入の一齣—W.S.ジェヴォンズと 7 人の日本人留学生—」 (1979)
- (7-b) 「W.S.ジェヴォンズの経済学講義 1878-1879—留学生山辺丈夫の筆記ノートについて—」 (1979)
- (7-c) 「W.S.ジェヴォンズ経済学の導入—*Primers of Political Economy*の翻訳史—」 (1980)
- (7-d) 「W.S.ジェヴォンズ論理学の日本への導入」 (1980)
- (7-e) 「W.S.ジェヴォンズの経済学教育—経済学教育の普及と専門化—」 (1983)
- (7-f) 「近代経済学の日本への導入—『国民経済雑誌』を中心に—」 (1989)
- (7-g) 「日本経済思想史研究—課題と展望—」 (1992)

〈井上研究史 8: Bibliographer〉

- (8-a) 「W.S.ジェヴォンズ著作目録・関係文献目録」 (1993 英語版：私家版)
- (8-a-1)改訂版： *W. Stanley Jevons: Collected Reviews and Obituaries*, vol. 2. (2002, pp.351-411)
- (8-a-1)改訂版“Bibliography of Published Works of W. S. Jevons,” (with M. V. White) *Journal of the History of Economic Thought*, no.15 (1993)
- (8-a-3)改訂版： *W. Stanley Jevons Selected Works in Variorum Editions*, vol. 2. (with M. V. White, (2018)
- (8-b) 「マーシャル諸著作邦訳・研究文献一覧」 (1993)
- Cf. 本郷亮「ピグー著作目録」 『ピグーの思想と経済学—ケンブリッジの知的展開のなかで—』 2007, pp. 17-29

〈井上研究史 9: Transcriber〉

- (9-a) 「W.S.ジェヴォンズの経済学講義 1878-1879—留学生山辺丈夫の筆記ノートについて—」 (1979)
- (9-b) *Additional letters of John Stuart Mill* (1997:Collected works of John Stuart Mill ; v. 32) 日本で所蔵の書簡情報取り纏めは馬渡尚憲・情報提供と資料提供

- (9-c) 「W.S.ジェヴォンズと F.ヘンドリックスージェヴォンズの未発表 8 通の書簡について」 (1995)
- (9-d) 「イギリス功利主義・原典コレクションーベンサム、ミル父子の著作・書簡を中心に」 (2002)
- (9-e) 「経済思想家の手稿と自筆書簡」 (2002)
- (9-f) “The Week-long Blank in J. S. Mill’s Sojourn in France: A Notebook Rediscovered,” *Notes and Queries*, vol. 250, no.1, 2005
- (9-g) 「イギリス留学生伊賀陽太郎宛書簡に見る日英交流ーイギリス人家庭教師ハムを中心にー (1) (2) 」 (2008)
- (9-h) 「T. R. マルサス (1766-834) の自筆書簡下書き」 (2010)
- (9-i) 「伊賀陽太郎滞英時代の英文ノート」 (2010) 伊賀はジェヴォンズの学生
- (9-j) 「関西学院大学図書館所蔵 J. S.ミル自筆書簡」 (2011)
- (9-k) *J.S. Mill’s Journal and Notebooks of a Year in France, May 1820-July 1821* (2014)
- (9-l) 「山辺丈夫滞英時代(1879)の英文・日本語日記」 (2015) 山辺はジェヴォンズの学生
- (9-m) 「関西学院大学図書館所蔵 J.S.ミル自筆書簡 (II) 」 (2016)
- (9-n) 「大阪商業大学図書館所蔵 J. S. ミル自筆書簡について」 (2017)

〈井上研究史 10: Editor〉

- (10-a) *W. Stanley Jevons: Collected Reviews and Obituaries*, 2 vols., 2002
- (10-b) 『幕末・明治初期邦訳経済学書』翻刻シリーズ I 全 7 巻、2006
- (10-c) *Economics in Meiji Japan, Collected Works of Western Origin, Part I*, 8 vols., 2009
- (10-d) *Economics in Meiji Japan, Collected Works of Western Origin, Part II*, 8 vols., 2011
- (10-e) *J.S. Mill’s Journal and Notebooks of a Year in France, May 1820-July 1821*, 2014
- (10-f) *W. Stanley Jevons Selected Works in Variorum Editions*, 2 vols., 2018